

会 告

国際ジオシンセティックス学会日本支部
2013年通常総会 議事録

日時：平成25年2月5日 16:00～17:00

場所：地盤工学会内

1. 出席者数の確認

【総 数】個人会員：210+特別会員：17社（特別会員議決 85 票）／議決票総数；295 票

【出 席】個人会員：18+特別会員：6名（特別会員議決 30 票）／議決票数；48 票

【委任状】個人会員：112名+特別会員：6社（特別会員議決 30 票）／議決票数；142 票

議決票数 190 票は、議決票総数 295 票のうち過半数(147 票)を超えており総会は成立した。

2. 議長選出と議長挨拶

三木支部長を議長とする案が提案され、可決された。

『世界各地で色々なことが起こっており、世界的な動乱ともいえる時代、国内では政権交代による政策の変化、「国土強靱化計画」の名のもとで、特別予算による公共事業への追い風が吹き始めている。国、地方の雇用も含めて増加する傾向にあると思う。

学会が取り組んできたことの成果が世に出て役立つことが期待される。』との挨拶があった。

三木支部長の挨拶に引き続き配付資料を用いて説明が行なわれた。

3. 2012年事業報告と2013年事業計画【資料-1】

1) 支部活動報告と活動計画

会員数の報告と支部活動全体の報告が桑野副支部長よりあった。

- ① 理事会への出席報告（リマ、バンコク）
- ② 理事改選選挙にともなう日本支部会員へのはたらきかけ
- ③ バンコクの洪水にともなう AIT サーバーの故障の代替として日本支部のサーバーで代行
- ④ 会員名簿の提出などの IGS 本部への対応
- ⑤ ジオシンセティックスシンポジウムの開催（2012年11月28～29日）
- ⑥ 筑波大学附属図書館 SCPJ プロジェクト
- ⑦ 刊行物の発行事業（名簿、技術情報、論文集）

2013年の活動計画の内容は2012年と概ね同様で進める。

2) 各委員会活動報告と活動計画（※報告要旨のみ記述／詳細は議事資料参照）

①編集委員会（木幡委員長）

4回の編集委員会を開催。

7月号は例年特集号としており、道路土工／擁壁工指針・斜面安定工指針の改定版の発行に合わせ「ジオシンセティックス補強土擁壁」を特集号のテーマにした。2013年7月は国土強靱化計画に合わせて「長期性能を確保するための技術」をテーマにする予定。

②試験法委員会（木幡委員長）

現行の3つのJISの改定に照準することを確認した。あわせて、JISの分類を「L」から「A」への変更にも取り掛かることとする。「L」経済産業省所管／「A」国土交通省所管地盤工学会の規準部の活動と連動させて進めたのでIGSでは経費は発生しなかった。

2013年はコーポレートメンバー委員会との意見交換を継続的に実施する予定。

③行事委員会（内村委員長）

シンポジウムは東京で開催。

今年度は新しい取り組みとして査読の時間を確保するために投稿の申し込みと本論文の提出を同時に行なった。例年よりも論文投稿件数が少なかったのはそのためかもしれない。

2013年度は香川高専で開催の予定12月4～5日とする。（嘉門先生、小竹先生のご協力）

④電子情報化委員会（小島委員長）

HPのメンテ作業が中心。

そのほか、論文集の公開と技術情報誌の電子化などの作業を行った。

12月のシンポジウムの後、1ヶ月後に公開できるようにしている。

2013年度も同様の事業計画。

⑤コーポレートメンバー委員会（梶尾委員長）

「技術情報」への会社紹介、特に大きな活動を行っていない。

理事選挙にあたっては、電子投票に係わるサポートをおこなった。

2013年度は例年と同様の活動のほか、新技術委員会と協調して活動する。名簿のメンテナンス、入会活動等を行う。

⑥表彰委員会（毛利委員長）

IGS 日本支部賞の選考が主な業務である。

来年度も継続して行う。

⑦学生教育委員会（鎌尾委員長）

入門セミナーと見学会が活動の中心。現場見学会が急遽中止となった。

来年度もセミナー・見学会を中心に企画する。

⑧ジオメンブレン技術委員会（島岡委員長／代理：山本）

第Vステージとしてポリウレタン、ポリウレアに代表される「液状遮水材料」の特性評価、施工性等の評価ととりまとめに取り組んだ。

2013年度は第VIステージとし、継続して「液体遮水材料」についての成果マニュアルを発行する。印刷費を計上したいので予算を15万増加させた。

⑨ジオテキスタイル技術委員会（宮田委員長）

ジオグリッド補強土擁壁の環境性能に関して

WG1 環境負荷の評価方法

WG2 既設構造物の健全度・維持管理技術

WG3 補強材の製造開発時の環境負荷について検討した。

本委員会は国際補強土工法委員会（大谷委員長）のJapan Support Committeeとしても活動している。

2013年度は鉄道総研 篠田委員に委員長になっていただき委員を公募してすすめることになる。

⑩新技術委員会（矢島委員長）

現場見学会でテールアルメ補強土壁を見学／ジオシンセティックス袋材のセミナーを実施した。2013年度も同様の活動となる。

⑪ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会について（菊池委員長／代理梶尾）

三回の委員会で手引書執筆の役割分担等を行った。パンフレットを作成した。

2013年12月末までに委員会の成果を出す。

3. 財務委員会報告：伊藤委員長【資料－2】

1) 一般会計

「収入の部」(資料2-2)

予算と概ね同額。特別会員1社退会。

「支出の部」(資料2-3)

支出は予算した額よりも300万円の減少。

収入と支出実績は概ね同額。収入が約50万円大きい。

2013年度への繰越金は21,700,354円。

2) 2013年度会計予算(案)(資料2-4)

収入の予算、支出は昨年度同様。支出予算は昨年よりも約50万円増額。

2014年度への繰越金は18,635,854円。

4. 会計監査報告：江崎会計監事(資料－3)

★監査報告は認められた

5. 質問と意見ほか

特筆するものはなかった。

6. 議題の承認

★2012年事業報告／2013年事業計画／財務報告・予算計画について、すべて承認された

7. 役員の確認【資料－4】

役員名簿で2013年度の役員を確認した。

新役員(委員会委員長枠)として菊池先生、鉄道総研篠田氏

江崎監事の交代で石川監事を迎える。

8. 閉会の挨拶：三木支部長

ジオシンセティックスの技術の普及と新しい技術開発に取り組んでほしい。

今後も日本支部の発展のためにご協力をお願いしたい。

本日の懇親会では、ゆっくり情報交換をおこなってほしい。

以上：議事録作成 榊尾

＜2012 年度事業報告及び 2013 年度事業計画＞

1. 現況会員数（2012 年 12 月 31 日現在）

正会員 207 名、特別会員 17 社、学生会員 11 名

（2011 年末の会員数： 正会員 226 名、特別会員 18 社、学生会員 17 名）

2. 日本支部の主な活動

1) IGS 理事会

1-1) 2012 年 4 月 29 日～5 月 2 日ペルー、Lima・The Westin Lima Hotel (IGS GeoAmericas)

日本の出席者：龍岡前会長、大谷理事、桑野理事

1-2) 2012 年 12 月 10 日～12 日タイ、Bangkok・Centara Grand (GeosyntheticAsia2012)

日本の出席者：龍岡前会長、桑野理事

1-3) 理事選挙（2 年ごとに半数改選）投票の呼びかけ(7 月～8/31)

日本支部会員各位に投票方法の説明を付し投票を呼び掛けた（桑野理事再選）

1-4) GeosyntheticAsia2012(2012 年 12 月バンコク) 支援

洪水による AIT サーバの故障に伴い、暫くの期間 HP 等を日本支部サーバで代行。

日本支部会員への投稿、会議出席・登録の勧誘

2) IGS 本部への会員名簿の提出

3) 2012 年 11 月 28-29 日 第 27 回ジオシンセティックスシンポジウム

4) 筑波大学附属図書館 SCPJ プロジェクト（平成 22-24 年度国立情報学研究所 CSI 委託事業）

各学会の著作権ポリシーに関する問い合わせ対応。

IGS 日本支部の出版物（技術情報、論文集）は：

「著作権は著者にあるが、学会が利用することを許諾してもらっている」という状態

著者の判断で、出版版（印刷・Web 同一）をファイルの形で各自で公開することは「可」

ただし J-Stage とのやり取りの中で

>J-STAGE へのリンク、または正本が J-STAGE にある、という情報の掲載を推奨

>電子ジャーナル記事としての正本は J-STAGE にあり、例えばエラータ情報や、引用文献のリンク機能などは PDF 単体では利用できない。

最近は大学図書館からの機関リポジトリ（研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム）関係の問合せが数件

3. 刊行物の発行事業

1. 国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿

2. ジオシンセティックス技術情報（3 月，7 月，11 月号）

3. ジオシンセティックス論文集第 27 巻

以上

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年編集委員会活動報告内容

- 1) 第 1 回編集委員会（日時：平成 24 年 2 月 3 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '12 編集体制の確認・検討・決定，委員の交代（平川委員→川邊委員：IGS News 抄訳の担当変更）
 - ・ '12. 3 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '12. 7 月号の特集を「ジオシンセティックス補強土擁壁」とした。
 - ・ '12. 7 月号の特集以外の内容に関する検討

- 2) 第 2 回編集委員会（日時：平成 24 年 5 月 25 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '12. 3 月号の申し送り事項と反省点の検討
 - ・ '12. 7 月号の特集に関する検討
 - ・ 道路土工指針「擁壁工指針」の発刊にあわせて，ジオシンセティックス補強土擁壁についての特集を組むこととし，執筆者の執筆状況の確認を行った。
 - ・ '12.11 月号の目次案および編集工程の検討

- 3) 第 3 回編集委員会（日時：平成 24 年 7 月 27 日(金)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ '12. 7 月号の進捗遅れの報告，未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '12.11 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ 技術賞推薦候補，技術奨励賞推薦候補の技術報文について，事前の委員選定結果に基づいて選考した。

- 4) 第 4 回編集委員会（日時：平成 24 年 9 月 27 日(木)，場所：三井化学産資 8F 会議室）
 - ・ 編集委員会開催時期の変更に伴う編集体および編集工程の見直しに関する検討
 - ・ '12.11 月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応，次号送り原稿の検討
 - ・ '12. 3 月号の目次案および編集工程の検討
 - ・ '12. 7 月号の特集に関する検討

(2) 2012 年委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・ 編集委員会	200,000	66,000 67,000 62,000 5,000	第 1 回編集委員会交通費 第 2 回編集委員会交通費 第 3 回編集委員会交通費 第 4 回編集委員会交通費
合 計	200,000	200,000	

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年活動予定内容

<全体の活動内容>

定期発刊を心掛けるとともに、「技術報文」の投稿については、編集委員による情報収集のほか、シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ、JC-JGS 技術賞候補論文および JC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。

毎年、特集号として位置付けられる 7 月号については、国土強靱化計画が策定されるなど、防災・減災、維持管理、メンテナンスなどが喫緊の課題とされていることから、「**長期性能を確保するための技術**」をテーマとして技術報文を募集する予定である。

また、我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから、ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していくとともに、これまで同様、「修士、博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。

<具体的な活動内容>

1. ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティックス技術情報は、従来通り年 3 回の発行とする。

(2013 年 3 月号, 2013 年 7 月号, 2013 年 11 月号)

2. 編集委員会

編集委員会においては、ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として、目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに、編集に際しての問題点の解決を行う。また、継続的な審議事項として、編集方針や内容分類の整理、テーマ特集号の設定、新企画の検討など、読者のニーズに合うように **check and review** を積極的に行う。なお、5 月の編集委員会では、2013 年度技術賞、技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：4 回程度（1 月，5 月，7 月，9 月を予定）

3. 主査・副査担当者

主査・副査担当においては、編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として、原稿の内容確認などを行う。なお、今年度の主査・副査担当者は以下に示す通りである。また、編集作業は、基本的にはメールで作業を行う。

12 年 3 月号：主査 土橋委員，副査：川島委員，高橋委員

7 月号：主査 内村委員，副査：榊尾委員，木幡委員

11 月号：主査 小浪委員，副査：西村委員，江崎委員

(2) 2013 年設営費計画

委員会設営費については、例年通りの交通費として以下の予算案としたい。

内 訳	20 年度予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	委員会交通費 (70,000×2 回+30,000×2 回)
合 計	200,000	

ジオシンセティックス試験法委員会 2012 年度活動報告

(1) 試験法委員会の活動概要

- ・地盤工学会基準部に設置されている室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。
- ・2012 年度は、現行のジオシンセティックスに関する 3 規格(JIS)の見直しや今後の対応について検討した。
 - ・現行 JIS の改訂作業については、JIS が「L」番号であるため「A」番号に変更することとした。
 - ・ローラコンパクタ法による損傷試験については、ISO では、依然、TS (技術仕様書) のままなので、ISO 化するように、ISO/TC221 (ジオシンセティックス) に働きかけを行った結果、正式に ISO 化することが承認された。
 - ・JIS のジオシンセティックス用語については、JC-IGS 編集委員会で作成した「ジオシンセティックス用語集」の内容に基づいて、JIS の見直し、改訂をおこなうこととなった。

(2) 2012 年度委員会設営費報告

2012 年度は、経費節減のため、メール審議を中心に活動したことと、地盤工学会/室内土質試験規格・基準委員会/WG6(ジオシンセティックス)と連動して委員会を開催したため、委員会設営費を使用せずに活動した。

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	0	
合 計	200,000	0	残 200,000 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2013 年度活動計画

(1) 活動計画

- 1) JIS L 0221 ジオシンセティックス用語について、JC-IGS 編集委員会で作成した「ジオシンセティックス用語集」の内容に基づいて、JIS の見直し、改訂作業を地盤工学会/室内土質試験規格・基準委員会/WG6(ジオシンセティックス)と協力して実施する予定である。
- 2) ISO で制定されている国際規格を参照しながら、今後、我が国において必要なジオシンセティックス基準を検討するとともに、土研センター、国内メーカー及び関連協会等と意見交換しながら、基準化すべき試験法を抽出する。
- 3)国内のジオシンセティック試験法に対する要望を収集するために、継続的に、IGS 日本支部コーポレートメンバー委員会との意見交換会を実施する予定である。

(2) 2013 年設営費計画

委員会を 2 回開催する予定であることから、以下の予算案としたい。

内 訳	2013 年度予算案(円)	備 考
① 委員会経費 ・試験法委員会	200,000	委員会交通費 (100,000×2 回) 熊本あるいは苫小牧-東京(2 回程度)
合 計	200,000	

行事委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年活動報告

第27回ジオシンセティックスシンポジウムを、11月28～29日に、地盤工学会館で開催した。

- 3月 会場、日時の決定
- 3月 ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
- 4月 地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
- 7月 2日 論文の申し込み締切（題目と概要）
- 7月 5日 第1回論文集編集委員会 幹事委員会合
- 10月31日 本論文の修正原稿提出締切
- 11月27日 シンポジウム プレイベント（フットサル大会：42名）
- 11月28～29日 第27回ジオシンセティックスシンポジウム（地盤工学会館）
参加者87名、一般発表(27編)、特別講演(東京大学 古関潤一教授)、
JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会36名
- 11月29日 第1回行事委員会

※第27回より、査読に十分な時間をかけるため、概要審査を省き、申込と同時に本論文を提出するようにした。

(2) 2012 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費	100,000	12,100	会議費
交通費	(25,000)	(0)	
通信費・消耗品費等	(25,000)	(12,100)	
論文集編集アルバイト代	(50,000)	(0)	

(3) シンポジウム収支報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
第27回シンポジウム	-	-102,620	
収入	670,000 (450,000) (200,000) (20,000)	422,000 (320,000) (63,000) (21,000)	シンポジウム参加費 懇親会参加費 プレイベント（フットサル）参加費
	-	-	論文集購入（現金0名）
	-	(18,000)	請求書払い（3名）
支出	670,000 (0) (410,000) (50,000) (30,000) (150,000) (30,000)	524,620 (0) (352,800) (10,000) (2,110) (126,530) (33,180)	会場費・設営費 論文集印刷費 210部 特別講演謝礼・交通費 通信費・消耗品ほか 懇親会費 プレイベント（フットサル）経費

平成24年11月28日/29日				
第27回ジオシンセティックスシンポジウム収支				
	シンポ参加人数	収入額	懇親会参加人数	収入額
正会員	45	180,000	参加者 21	63,000
非会員	15	90,000		
招待	7	0	学生 4	0
優待	10	40,000	招待 11	0
学生	10	10,000		
小計	87	320,000	小計 36	63,000
			参加収入総計	383,000
		請求書払い	3	18,000
		計		401,000
				非会員3名 総計見込み

行事委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年活動予定内容

第 28 回ジオシンセティックスシンポジウムは、12 月 4 日（水）～5 日（木）、香川高等専門学校で開催する。

- 2 月 会場、日時の決定
- 2 月 ジオシンセティックス技術情報、Web、メールでの発表論文募集への会告掲載
- 4 月 地盤工学会・繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼、広報依頼
- 7～11 月 技術情報誌、Web、メール、地盤工学会誌などにおける開催案内
- 7 月 31 日 論文の申し込み締切（題目と概要）
- 8 月上旬 第 1 回論文集編集委員会 幹事委員会合
- 10 月 31 日 本論文の修正原稿提出締切
- 11 月上旬 招待状発送（支部顧問、特別会員）、修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
- 12 月 3 日 シンポジウム プレイベント（フットサル大会）
- 12 月 4～5 日 第 28 回ジオシンセティックスシンポジウム（香川高等専門学校）
一般発表、特別講演、JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式
- 12 月 5 日 第 1 回行事委員会

(2) 2013 年設営費計画

2013 年度の予算（案）

内 訳	予 算	備 考
行事委員会設営費	100,000	
(内訳)	(25,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか
	(25,000)	通信費・消耗品費等
	(50,000)	論文集編集アルバイト代
第 28 回シンポジウム	-250,000	(香川)
(収入)	450,000	
	(330,000)	シンポジウム参加費
	(100,000)	懇親会参加費
	(20,000)	プレイベント参加費
(支出)	700,000	
	(0)	会場費・設営費
	(440,000)	論文集印刷費 210 部
	(50,000)	特別講演謝礼・交通費
	(30,000)	通信費・事務局旅費ほか
	(150,000)	懇親会費
	(30,000)	プレイベント経費

2013 年度 行事委員会・論文集編集委員会 名簿：

- | | | | |
|-----|--------------------|----|-------------------|
| 委員長 | 内村太郎（東京大学） | 委員 | 中村 努（苫小牧高等工業専門学校） |
| 顧問 | 落合英俊（九州大学） | 委員 | 西形達明（関西大学） |
| 顧問 | 嘉門雅史（香川高等専門学校） | 委員 | 間 昭徳（三菱樹脂(株)） |
| 委員 | 金子賢治（八戸工業大学） | 委員 | 平川大貴（防衛大学校） |
| 委員 | 河端俊典（神戸大学） | 委員 | 峯岸邦夫（日本大学） |
| 委員 | 熊谷浩二（八戸工業大学） | 委員 | 安福規之（九州大学） |
| 委員 | 小島謙一（(財)鉄道総合技術研究所） | 委員 | 吉田浩一（前田工織(株)） |
| 委員 | 小竹 望（香川高等専門学校） | | |

以上

電子情報化委員会 2012年活動報告

(1) 2012年活動予定内容

<主な活動内容>

- ・ HPの更新、改良（ニュース、データベースなど）
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化、公開
- ・ その他

1. HPの更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについてはHP担当を中心として、更新等を実施する。

今年度から新サーバーへの移行を行った。当初心配された立ち上げ時（移行時）のトラブルもなく安定した状態で運営を行うことができた。今後も引き続き確認等を行いながら、運営を行っていきたい。

○URL <http://www.jcigs.org/>（2012年1月より）

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J-Stageにおいてジオシンセティクス論文集を公開中である（年1回の追加）。

技術情報誌：Journal@rchiveで掲載中（2008年まで）

全ページおよび2009年以降分については、日本支部HP内でのデータベースとして掲載の準備を行った。

3. その他

- ・ GA2012のサポートについて

2012年2月15日のAbstractの申し込み締め切りまでは、本体制でサポートを行った。

- ・ 今後の活動について

HPの内容の充実を図るべく、掲載内容について検討を進めた。特に、IGS日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めた。

- ・ 委員が1名退任するので、別途1名の追加を行った。

(2) 2012年委員会設営費報告

予算：100,000円

- ・ HPメンテナンス作業： 50,000円
- ・ 論文集電子化作業： 20,000円
- ・ 送金手数料（2回）： 420円
- <支出合計> 70,420円
- <残金（事務局返金）> 29,580円

電子情報化委員会 2013年活動計画

(1) 2013年活動予定内容

<主な活動内容>

- ・ HPの更新、改良（ニュース、データベースなど）
- ・ 論文集の公開、技術情報誌の電子化、公開
- ・ その他

1. HPの更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについてはHP担当を中心として、更新等を実施する。特に各委員会との連携を強化して、より迅速に会員をはじめ、部外への情報発信を積極的に行っていきたい。

○URL <http://www.jcigs.org/>（2012年1月より）

2. 論文集の公開、技術情報誌の電子化

論文集：J-Stageにおいてジオシンセティクス論文集を公開中である（年1回の追加）。

技術情報誌：Journal@rchiveで掲載中（2008年まで）

全ページおよび2009年以降分については、日本支部HP内でのデータベースとして掲載を進める。

3. その他

- ・ 今後の活動について

HPの内容の充実を図るべく、特に、IGS日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めている。各委員会におかれては活動内容などをHPを利用して情報発信していただければと考えている。

国際化に対応して、日本支部のHPではあるものの、簡単な概要等を英文化することを検討していきたい。

(2) 2013年委員会設営費（案）

予算：100,000円

(内訳)

- ・ HPメンテナンス作業： 60,000円
- ・ 論文集電子化作業： 30,000円
- ・ その他（事務手数料他）： 10,000円

<支出合計> 100,000円

コーポレートメンバー委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年活動報告内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
 - ・3月号 鹿島建設(株)
 - ・7月号 三井化学産資(株)
 - ・11月号 RRR工法協会, 三菱樹脂(株), 岡三リビック(株)

- IGS本部理事電子投票に係わる日本支部コーポレートメンバーへのサポート

(2) 2012 年委員会設営費報告

委員会設営費 : 収入 50,000 円
 支出 0 円
 残金 50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- コーポレートメンバー会議の開催
⇒新技術委員会参加会社と協調して活動する
- 各委員会からの連絡事項への協力
- IGS本部名簿のメンテナンス
- その他/会社単位での入会勧誘活動を行う。

(2) 2013 年委員会設営費計画

委員会設営費 : 収入 50,000 円

※) 会議費等で使用予定

表彰委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年表彰委員会活動報告内容

- ・2012 年度 IGS 日本支部賞の選考

2012 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規定により、表彰委員会にて選考した。

2012 年 11 月 28 日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

①JC-IGS 論文賞

(ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者)

前田 健一・柴田 賢・馬場 干児・榊尾 孝之・今瀬 達也

「豪雨と気泡の影響を考慮した河川堤防における透気遮水シートの設置効果」

②JC-IGS 論文奨励賞

(ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

中島 進 (なかじま すすむ)・榎本 忠夫 (えのもと ただお)

「分割型壁面のジオテキスタイル補強土壁に関する動的遠心模型実験 (その2 地震時挙動と変形特性)」

③JC-IGS 技術賞 (ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ)

齋藤 優・森 正嗣・竹中 計行

「E バッグ工法の開発と実用化」

④JC-IGS 技術奨励賞

(ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

河端 俊典・澤田 豊・毛利 栄征

「ジオグリッドによる圧力管路屈曲部の耐震化工法の研究開発」

(2) 2012 年表彰委員会設営費報告

2012 年設営費	150,000 円
賞状費用	4,898 円
盾費用	61,425 円
振込手数料	400 円
計	66,723 円

表彰委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年表彰委員会活動予定内容

- ・2013 年度 IGS 日本支部賞の選考、報告など
- ・IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

(2) 2013 年表彰委員会予算案

盾、賞状作成費として 150,000 円

以上

学生・教育委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年活動報告内容

1) 委員会開催内容

第 1 回 学生・教育委員会

開催日：2012 年 10 月 22 日(月)

会 場：地盤工学会会議室

内 容：委員会運営方法について

見学会・入門セミナーの開催について

第 2 回 学生・教育委員会

開催日：2012 年 12 月 20 日 (木)

会 場：日本大学理工学部会議室

内 容：第 13 回入門セミナーの反省会

次年度に向けての検討

2) 行事開催

第 13 回ジオシンセティックス入門セミナー

開催日時：2012 年 12 月 20 日 (木) 10:45~12:15

場 所：日本大学理工学部駿河台校舎 134 教室

参加人数：66 名 (正会員：5 名、非会員：1 名、学生 (非会員)：60 名)

内 容：開会挨拶

(鎌尾彰司・日本大学)

ジオシンセティックスの種類と材料特性 (峯岸邦夫・日本大学)

廃棄物最終処分場とジオシンセティックス (安藤彰宣・旭化成ジオテック(株))

(2) 2012 年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費			
会議費	20,000	19,000	委員交通費、食事代 講師謝礼、学生アルバイト
入門セミナー経費	40,000	35,000	
見学会経費	40,000	0	
合計	100,000	54,000	

学生・教育委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年活動予定内容

1) 委員会開催

入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 3 回程度の委員会を開催予定。

2) 行事開催

第 14 回ジオシンセティックス入門セミナー

現場見学会

(2) 2013 年設営費計画

内 訳	予 算
委員会設営費	
会議費	20,000
見学会経費	40,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅴステージ）2012年活動報告

（1）ジオメンブレン技術委員会 2012 年活動報告

ジオメンブレン技術委員会では、「液状遮水材料」についての評価方法（試験項目・方法）を整理し、管理値（基準値、安全率等）の設定および施工性（施工・管理方法）ならびに留意点等について、第Ⅴステージの検討成果を「(仮称) 液状遮水材による遮水工マニュアル」としてとりまとめを行った。マニュアルの目次は以下のとおりである。

- 第1章 諸言
- 第2章 遮水材料の変遷
- 第3章 液状遮水材料の基本事項
- 第4章 液状遮水材料の適用
- 第5章 液状遮水材料による遮水構造と設計
- 第6章 液状遮水材料の施工と維持管理

（2）2012 年委員会設営費報告

委員会開催

2011 年 委員会設営費報告（自 2011 年 1 月 1 日 ～至 2011 年 12 月 31 日）

科 目	予 算	決 算	備 考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥183,500-	委員会 5 回開催
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥16,160-	会議費, 通信費等
合 計	¥200,000-	¥199,660-	

ジオメンブレン技術委員会（第Ⅵステージ）2013年活動計画

（1）2013 年活動計画

ジオメンブレン技術委員会第Ⅵステージでは、今後の廃棄物処分場におけるジオメンブレン（あるいはジオシンセティックス）の普及と活用を目指した検討と技術提案をテーマに活動を行う予定である。

具体的には第Ⅴステージで検討してきた「液状遮水材」についてのマニュアルの補完ならびに適用検討を実施する予定である。

委員会組織

委員長： 島岡 隆行（九州大学大学院工学研究院）

（2）2013 年設営費計画

2013 年度 委員会予算（自 2013 年 1 月 1 日 ～至 2013 年 12 月 31 日）

科 目	予 算	備 考
1. 委員交通費	¥225,000-	委員会 5 回開催（¥45,000×5 回=¥225,000-）
2. 通信・消耗品費	¥125,000-	郵便, 通信, 封筒, マニュアル印刷費等
合 計	¥350,000-	

ジオテキスタイル技術委員会（第Vステージ）2012年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会2012年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会では、第Vステージとしてジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関する検討として3つのWGを構成し、活動を行った。各WGは、ジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関して、WG1：環境負荷（LCC02）の評価法、WG2：既設構造物の健全度評価法と維持管理技術、WG3：ジオグリッドの製造・廃棄における環境負荷低減化について検討することとした。本年は最終年度であるため、成果のとりまとめを行った。

2012年は1回の全体委員会と2回のWGを実施した。その議事は下記の通りである。

- 第3回WG1：平成24年6月27日、15：00-17：00、地盤工学会小会議室
 - 1) WG1の進め方について
 - 2) 被災時における経済的な損失について
 - 3) LCC、LCC02の評価方法について
- 第2回WG2：平成24年7月6日、14:00-17:00、鉄道総研 東京オフィス
 - 1) WG2の進め方について
 - 2) 鉄道・道路・港湾構造物の維持管理について
 - 3) 補強土壁の被災状況収集について
- 第4回全体委員会：平成24年12月21日、9：30-12：00、地盤工学会中会議室
 - 1) 各WGの活動内容について
 - 2) 報告書の執筆状況について
 - 3) 全体スケジュールについて

報告書（2013年4月、電子媒体にて公開予定）の目次は以下のとおり。ジオシンセティックス論文集への投稿、第28回ジオシンセティックスシンポジウムでの発表も検討している。

- ・ はじめに
- ・ 既往の研究
- ・ ジオグリッドの製造・廃棄・（リサイクル）における環境負荷低減化
- ・ ジオテキスタイル補強土壁の長寿命化技術
- ・ ジオグリッド補強土壁のLCC、LCC02の評価法
- ・ 今後の課題
- ・ おわりに

（2）2012年委員会設営費報告

2012年 委員会設営費報告（自2012年1月1日 ～至2012年12月31日）

科目	予算	決算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥40,000-	委員会交通費（6/27, 7/6, 12/21）
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥157,900-	報告書作成費、振込み手数料
合計	¥200,000-	¥197,900-	

ジオテキスタイル技術委員会（第VIステージ）2013年活動計画

（1）2013年活動計画

ジオテキスタイル技術委員会第VIステージ（2013年1月～2015年12月）では、ジオグリッド補強土壁の安全裕度の定量評価を目標に全体委員会を年2回、WGを年5回開催する予定である。

委員会組織

委員長： 篠田 昌弘（(公財) 鉄道総合技術研究所）

委員： 未 定（公募予定）

（2）2013年設営費計画

2013年度 委員会予算（自2013年1月1日 ～至2013年12月31日）

科 目	予 算	備 考
1. 委員交通費	¥180,000-	全体委員会：¥40,000（1回）×2回=¥80,000- WG：¥20,000（1回）×5回=¥100,000-
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	郵便，通信，資料コピー，封筒等
合計	¥200,000-	

新技術委員会 2012 年活動報告

(1) 2012 年活動報告内容

新技術委員会では 2012 年の活動として、

①ジオンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした、現場見学・工場見学の開催

②新技術関連の講演会の開催

を計画した。

①については、2012 年 7 月 27 日(金)にさがみ縦貫小倉地区改良工事におけるテールアルメ工法による高さ 11m の補強土壁と葉山島トンネルの施工現場の見学会を実施した。(参加者 12 名)

②については、2012 年 10 月 19 日(金)に岡本敏雄氏(耐候性大型土のう協会)による「東日本大震災の復旧・復興におけるジオテキスタイル袋材の施工事例」と題して講演会を開催した。(参加者 10 名)

新技術委員会の 2012 年活動内容を下表に示す。

	日時	場所	議事内容	備考
	2012 年 6 月 15 日～	メール審議等	・総武国道事務所との打合せ ・現場見学会の日程調整	
現場見学会	2012 年 7 月 27 日	さがみ縦貫小倉地区改良工事	・テールアルメ工法の施工現場見学会	
	2012 年 8 月 20 日～	メール審議等	・講演会の日程調整	
講演会	2012 年 10 月 19 日	(公社)地盤工学会	・岡本敏雄氏(耐候性大型土のう協会) 「東日本大震災の復旧・復興におけるジオテキスタイル袋材の施工事例」	

(2) 2012 年委員会設営費報告

2012 年の設営費報告を以下に示す。

収入	支出	残額	支出項目	備考
150,000			---	
	15,000		現場見学会運送料	7/27
	2,940		お茶代	7/27
		132,060		

新技術委員会 2013 年活動計画

(1) 2013 年活動予定内容

新技術委員会では 2013 年も 2012 年同様の活動を継続する。

①ジオンセティックスの新技術情報の調査・研究や新技術委員会の活性化を目的とした、現場見学・工場見学の開催

②新技術関連の講演会の開催

(2) 2013 年設営費計画

2013 年の設営費計画を以下に示す。

交通費	会議費	講演会費	計	備考
50,000	50,000	50,000	150,000	

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会2012年活動報告

(1) ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会2012年活動報告

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会は、以下の体制、目標にて発足、8月に第1回目の委員会を開催し、活動に着手した。

1)体制

委員長 :東京理科大学理工学部土木工学科 菊池 喜昭 教授、

副委員長:農村工学研究所施設工学研究領域 毛利 榮征 領域長 他委員21名

2)活動の目標

津波に対する粘り強さを発揮できる堤防を実現するための「ジオテキスタイル強化防潮堤」設計・施工標準マニュアルを提案することを最終目標とする。

設計、施工標準マニュアルの提案を目標としており、今年度はマニュアルの基本方針の策定と、それ準ずる骨格作り、加えて素案の作成を行った。各回の委員会では、各委員からの研究、実験等の報告を受け、委員間での情報の共有化を行った。加えて、学会としても新しい試みであろう委員会活動内容の広報チラシを作成し、今後実際の工事に携わられる一般の技術者へ配布することとしている。

2012年は3回の委員会を実施した。その議事は下記の通りである。

○第1回委員会:8月28日(火) 14時～16時 三井化学産資 会議室

防潮堤崩壊の再現実験の紹介、設計施工マニュアルの方針策定と骨格決め

○第2回委員会:10月17日(火) 14時30分～17時30分 三井化学産資 会議室

農工研による施工性評価試験の紹介、設計施工マニュアルのドラフト紹介、委員会活動案内用チラシ案確認

○第3回委員会:12月19日(水) 14時30分～17時30分 三井化学産資 会議室

防潮堤崩壊の再現実験の紹介、性評価試験の紹介、設計施工マニュアルの内容検討、委員会活動案内用チラシ最終確認

(2) 2012年委員会設営費報告

2012年 委員会設営費報告 (自2012年8月28日 ～至2012年12月31日)

科目	予算	決算	備考
1. 委員会経費	¥200,000-	0-	
合計	¥200,000-	0-	残: ¥200,000-

ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会2013年活動計画

(1) 2013年活動計画

期日目標である9月末までのマニュアル完成を目指し、各委員分担にマニュアル作成活動を行う。また、委員間での技術情報共有の機会を設けることとしたい。なお、本委員会の活動期間を9月までとしているが、マニュアルの完成度を高め、技術の普及を進めるための活動計画（次ステージ）を立案する。9月末までに5回の委員会を開催する予定である。なお、委員については随時募集としたい。

(2) 2013年設営費計画

2013年度 委員会予算（自2013年1月1日 ～至2013年9月31日）

科 目	予 算	備 考
1. 交通費	¥180,000-	現場見学会
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	通信, 資料コピー, 封筒等
合計	¥200,000-	

財務委員会 2012 年報告

(1) 2012 年度会計決算 (別紙 参照)

収入は、予算と実績はほぼ同額となった。

会費については、法人会員が 1 社退会したために予算より少なくなった。

広告収入は、2011 年度分が 2012 年度に入金されたために予算よりも多くなった。

支出は、予算よりも約 270 万円ほど少なくなった。

これは、委員会経費が予算の半分程度の実績であったのと、事務局経費の地盤工学会会議室使用費が未請求のためである。

繰入れ費を除いた収入実績は 6,860,554 円、支出実績は 6,343,516 円となり、517,038 円の収入プラスとなった。

(2) 2013 年度会計予算 (別紙 参照)

収入は、法人会員 1 社退会のため、昨年度より約 30 万円の減少の 6,508,500 円とした。

支出は、新設委員会が設立されたのと、シンポジウムが四国開催のため、さらに地盤工学会への謝礼を 2 年分入れたために、昨年度より約 50 万円増額の 9,573,000 円とした。

したがって、今年度の予算は 3,064,500 円のマイナス予算である。

2014 年度への繰越金は 18,635,854 円となった。

IGS日本支部 2012年度会計決算
 期間:2012年1月1日～2012年12月31日

平成25年2月5日

収入の部

科 目	2012年予算	2012年実績	備 考
1. 会費等収入			
①2012年度分			
法人会	4,320,000	4,080,000	17社×240,000円/社
個人会員	1,600,000	1,472,000	184名×8,000円/人
学生会員	15,000	7,000	7名×1,000円/人
②本部還付金	72,000	74,826	18社×50\$ (83.14円/\$)
(小計)	6,007,000	5,633,826	
2. 講習会・出版等収入			
シンポジウム	450,000	430,000	参加費+懇親会収入(フットサル参加費含む)
講習会, 見学会他	10,000	1,000	入門セミナー
書籍, ビデオ等販売	10,000	10,210	
書籍印税			
(小計)	470,000	441,210	
3. 広告等収入			
技術情報誌広告	350,000	784,000	2011年分が2012年に入金のため実績額多くなった。
(小計)	350,000	784,000	3月号、7月号、11月号、
4. 受取り利息等			
受取り利息	2,000	1,518	
その他	0	0	
(小計)	2,000	1,518	
(収入合計)	6,829,000	6,860,554	
5. 繰越し金			
繰越し金	21,183,316	21,183,316	2011年から2012年への繰越し金
(小計)	21,183,316	21,183,316	
(収入総合計)	28,012,316	28,043,870	

支出の部

科 目	2012年予算	2012年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当:事務局
法人会員	1,440,000	1,496,520	18社×1000 \$ /社×83.14円/\$
個人会員	504,000	478,886	192名×30 \$ /名×83.14円/\$ (222名 2011年末)
学生会員	0	0	20名×0円/名
(小計)	1,944,000	1,975,406	
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	500,000	524,620	担当:行事委員会
講習会・見学会補助費	100,000	0	
税金、原稿料等	0	0	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	600,000	524,620	
3. 技術情報発行費			担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,350,000	1,099,980	952,980万(情報誌)+147,000円(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	50,000	13,000	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	250,000	273,700	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,650,000	1,386,680	
4. 委員会経費			担当:各委員長
国際連絡委員会	1,500,000	808,000	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	12,100	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	66,723	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	200,000	0	新設委員会
ジオテクスタイル技術委員会	200,000	197,900	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	199,660	
新技術委員会	150,000	17,940	
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	0	
学生教育委員会	100,000	54,000	見学会, 入門セミナー
電子情報委員会	150,000	70,420	HPの更新・改良
財務委員会	0	0	
(小計)	3,200,000	1,626,743	
5. 事務局経費,その他			担当:事務局
総会	70,000	72,756	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	0	地盤工学会から未請求のため0円。13年度にまとめて支払い予定。
事務局費	100,000	100,000	埼玉大学コピー代その他
通信費	120,000	64,980	
消耗品費	100,000	181,796	IGS封筒印刷
備人費	750,000	360,600	事務局備人費
幹事会	40,000	16,000	会議費, 幹事交通費, 通信費資料購入など
その他	100,000	33,935	事務局交通費, 慶弔費等, 送金費, 謝金
(小計)	1,630,000	830,067	
(支出合計)	9,024,000	6,343,516	
6. 予備費・繰入れ費			
2012年から2013年への繰越金	18,988,316	21,700,354	2012年から2013年への繰越金
(支出総合計)	28,012,316	28,043,870	

IGS日本支部 2013年度会計予算

平成25年2月5日

期間:2013年1月1日~2013年12月31日

収入の部

科 目	2013年予算	備 考
1. 会費等収入		
①2012年度分		
法人会員	4,080,000	17社×240,000円/社
個人会員	1,520,000	190名×8,000円/人
学生会員	10,000	10名×1,000円/人
②本部還付金	76,500	17社×50 \$ (90円/\$)
法人会員分		
(小計)	<i>5,686,500</i>	
2. 講習会・出版等収入		
シンポジウム	450,000	参加費+懇親会収入(フットサル参加費含む)
講習会, 見学会他	10,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	10,000	
書籍印税		
(小計)	<i>470,000</i>	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	350,000	3月号、7月号、11月号
(小計)	<i>350,000</i>	
4. 受取り利息等		
受取り利息	2,000	
その他	0	
(小計)	<i>2,000</i>	
(収入合計)	<i>6,508,500</i>	
5. 繰越し金		
繰越し金	21,700,354	2012年から2013年への繰越し金
(小計)	<i>21,700,354</i>	
(収入総合計)	28,208,854	

支出の部

平成25年2月5日


科 目	2013年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	1,530,000	17社×1000\$/社×90円/\$
個人会員	513,000	190名×30\$/名×90円/\$
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	2,043,000	
2. 講習会・出版等支出		担当:行事委員会
シンポジウム	700,000	
講習会・見学会補助費	100,000	
税金、原稿料等	0	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	800,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会,(名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,150,000	100万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業,原稿料他	20,000	アルバイト代,原稿料
発送,連絡費	280,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	1,450,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,500,000	理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾,賞状作製費10万
技術委員会	200,000	ジオテキスタイルによる粘り強い強化防潮堤開発委員会
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	350,000	マニュアル作成
新技術委員会	150,000	
ジオシンセティック試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会,入門セミナー
電子情報委員会	100,000	HPの更新・改良
財務委員会	0	
(小計)	3,300,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	70,000	総会+懇親会費
地盤工学会会議室使用費	700,000	会議室使用費・コピー代(5万円)、2年分
事務局費	100,000	埼玉大学コピー代その他
通信費	120,000	
消耗品費	100,000	
備人費	750,000	事務局備人費
幹事会	40,000	会議費,幹事交通費,通信費資料購入など
その他	100,000	事務局交通費,慶弔費等,送金費,謝金
(小計)	1,980,000	
(支出合計)	9,573,000	
6. 予備費・繰入れ費		
2013年から2014年への繰越金	18,635,854	
(支出総合計)	28,208,854	

監 査 報 告 書


国際ジオシンセティックス学会日本支部の2012年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成25年2月5日

会計監事 間 昭徳

署名 間 昭徳 印 

会計監事 江崎 孝二

署名 江崎 孝二 印 

IGS日本支部 2013年度 役員名簿

2013年2月5日

支部長	三木 博史	(三木地盤環境工学研究所)
副支部長	桑野 二郎	(埼玉大学)
幹事長	平井 貴雄	(三井化学産資)
副幹事長	*宮田 喜壽	(防衛大学校)
副幹事長	*横田 善弘	(前田工織)
会計・幹事	伊藤 雅夫	(前田工織)
幹事	*今泉 繁良	(宇都宮大学)
幹事	*内村 太郎	(東京大学)
幹事	大谷 順	(熊本大学)
幹事	*鎌尾 彰司	(日本大学)
幹事	*嘉門 雅史	(香川高等専門学校)
幹事	#菊池 喜昭	(東京理科大学)
幹事	*清川 伸夫	(東京インキ)
幹事	熊谷 浩二	(八戸工業大)
幹事	*小島 謙一	(鉄道総合技術研究所)
幹事	*古関 潤一	(東京大学)
幹事	木幡 行宏	(室蘭工業大学)
幹事	島岡 隆行	(九州大学)
幹事	*龍岡 文夫	(東京理科大学)
幹事	*矢島 寿一	(明星大学)
幹事	*榊尾 孝之	(太陽工業)
幹事	満尾 淳	(東急建設)
幹事	峯岸 邦夫	(日本大学)
幹事	椋木 俊文	(熊本大学)
幹事	*毛利 栄征	(農村工学研究所)
監事	*間 昭徳	(三菱樹脂)
監事	#石川 雅洋	(東洋紡績)
事務局	伊集院紀子	(IGS 日本支部事務局)
支部顧問	赤木 俊允	(東洋大学名誉教授)
支部顧問	岩崎 高明	(エス・エヌ・テーエンジニア)
支部顧問	田中 茂	(神戸大学名誉教授、(財)建設工学研究所)
支部顧問	福岡 正巳	(土木研究センター)

*再任、 #新任